

事務事業評価(事前評価)シート【令和2年度】

主管課(担当名)	教育総務課(学校教育担当)	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画 <input checked="" type="checkbox"/> 重点プロジェクト
事務事業名	学力向上対策に伴う会計年度任用職員給与費	事業番号	

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	3-3	義務教育の充実
	施策目標	確かな学力を身につけ豊かな人間性を育むまち	

2 事務事業の目的

目的	市内小中学校及び義務教育学校(北斗小・花咲小・成央小・光洋中・柏陵中・啓雲中・歯舞学園)に補助教員を配置し、チームティーチング、少人数指導、習熟度別指導、放課後や長期休業中の補習を行い、学力向上を推進する。
成果	当市は学力下位層に位置する児童生徒の割合が他地域に比べて高く、基礎学力の底上げを図ることが喫緊の課題であることから、補助教員を配置し、きめ細かな指導体制の充実により、児童生徒の学力向上が期待できる。
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営(市が直接実施) <input type="checkbox"/> 補助(民間等に補助) <input type="checkbox"/> 委託(民間等に委託) <input type="checkbox"/> その他
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務

3 事務事業の概要

事務事業の概要	年度	概要				
		H30				
	R1					
	R2					
	R3					
	R4	市内小中学校及び義務教育学校(北斗小・花咲小・成央小・光洋中・柏陵中・啓雲中・歯舞学園)に補助教員を配置し、チームティーチング、少人数指導、習熟度別指導、放課後や長期休業中の補習を行う。				
	R3	市内小中学校及び義務教育学校(北斗小・花咲小・成央小・光洋中・柏陵中・歯舞学園)に補助教員を配置し、チームティーチング、少人数指導、習熟度別指導、放課後や長期休業中の補習を行う。				
	R4	市内小中学校及び義務教育学校(北斗小・花咲小・成央小・光洋中・柏陵中・歯舞学園)に補助教員を配置し、チームティーチング、少人数指導、習熟度別指導、放課後や長期休業中の補習を行う。				

		(単位:千円)	H30	R1	R2	R3	R4	総事業費
事業費と内訳	事業費				28,539	28,539	28,539	85,617
	内訳	国庫支出金						
		道支出金						
		地方債						
		その他			28,539	28,539	28,539	85,617
	一般財源							
人員(人工)								
職員費(人員×7,673千円)								
総事業費				28,539	28,539	28,539	85,617	
維持管理	管理主体							
	運営方法							
	維持管理費	施設維持費						
		概算人件費						
	合計/年							

4 事務事業の現状と課題

活動指標	指標名	計画値 (R1)	目標値 (R2)	目標値 (R7)
	学力向上等補助教員の配置校数	7校	7校	6校
	基礎学力(国語・算数)の定着状況(小学校6年生)	53.5	全道平均以上	全道平均以上
	基礎学力(国語・数学)の定着状況(中学校3年生)	50.0	全道平均以上	全道平均以上
事務事業改善策 (継続事業のみ記入)				

5 事務事業の効果について

取組みに当たって期待される効果など	市内小中学校及び義務教育学校に学力向上等補助教員を配置することによって、チーム・ティーチングによる指導や習熟度別指導等、基礎・基本の定着に向けたきめ細かな指導が可能となり、学力向上に繋がることが期待できる。
-------------------	---

6 評価の視点

ア. 市民ニーズ	<input type="checkbox"/> かなりのニーズがある <input checked="" type="checkbox"/> ニーズはある <input type="checkbox"/> ニーズはあまりない 保護者からは子どもたちの学力向上を望む声があり、市民意識調査でも、補助教員の配置による、「少人数学級による教育の推進」や「個性や才能を伸ばす教育」へのニーズがあり、学校現場からも配置を求める声がある。
イ. 市が実施する必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべきである <input type="checkbox"/> 市の実施について検討の余地あり <input type="checkbox"/> 市以外で実施可能である 教職員定数は、児童生徒数に伴う学級数により割り当てられるため、道費負担による正規教職員の配置は不可能であることから、市独自による配置が必要である。
ウ. 事業の緊急性	<input checked="" type="checkbox"/> 緊急性が高い <input type="checkbox"/> 緊急性はある <input type="checkbox"/> 緊急性はない 当市は、学力下位層の割合が他の管内よりも高い状況にあり、学力向上対策は喫緊の課題となっている。
エ. 手段の適切性	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 現状として妥当である <input type="checkbox"/> 検討の可能性はある 道費負担による教職員加配は、必ずしも希望どおり措置されないことから、補助教員等の配置によるきめ細かな指導が児童生徒の学力向上に繋がるものと考え。
オ. 事業の公平性	<input type="checkbox"/> 公平性は高い <input type="checkbox"/> 概ね公平である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地はある 現状は、市街地6小中学校と歯舞学園に配置しているが、学力向上対策を図る上では、全ての学校に配置することが望ましいと考える。
カ. 事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 本事業の有効性が高い <input type="checkbox"/> 本事業の有効性がある <input type="checkbox"/> 既存事業と大きな差はない 学力向上等補助教員の配置によって、基礎・基本の定着に向けたきめ細かな指導が可能となり、学力向上に繋がることが期待できる。

7 今後の事業の進め方

ア. 総合政策部で付された意見	【速やかに実施】 速やかに事業実施を図るとともに、きめ細かな指導体制の充実により、良好な学習環境の確保に努められたい。
イ. アを踏まえ、担当部局の方針	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり着手が適当 <input type="checkbox"/> 再検討し実施する <input type="checkbox"/> 着手を延期する 速やかに補助教員の配置を進め、習熟度別授業の実施など指導体制の強化を図り、基礎学力の向上に向けた環境整備に努めていく。

作成年月

令和2年6月